

③ 地域発信！ふるさと便

広報なばり 10 - 2号で紹介した7地域に引き続き、残り8地域の
アピールしたい事項や魅力的な事業などを市にお寄せいただきまし
たので、ご紹介します。 問 地域経営室 ☎ 63 - 7484

蔵持地区まちづくり委員会

問い合わせ先 ☎・fax 63 - 0235
(蔵持公民館内) ✉ kuramochi-ko@emachi-nabari.jp

4つのまちづくりビジョン

❶ 「健康で生き生きらせる まちづくり」

— 結ぶ・つながる人の輪作り

- ①くらっ子広場の充実
- ②高齢者サロン事業の充実
- ③世代間交流事業の実施
- ④地域交流事業の実施



ウォークラリー (❶・④)

❷ 「歴史と文化のまちづくり」 — 過去から未来へつなぐ記憶

- ①歴史と史跡の紹介誌の作成
- ②心を豊かにするイベントの開催
- ③各種講演の開催
- ④公民館事業の実施

❸ 「安心、安全の出来るまちづくり」

— だいじなものをみんなで守る

- ①青色防犯パトロールの実施
- ②自主防災訓練の実施
- ③災害時要援護者支援制度の充実
- ④地区内道路の整備推進と歩道の確保
- ⑤防犯灯の設置を推進
- ⑥迷惑駐車禁止

❹ 「環境に優しいまちづくり」

— 魅力ある居住環境を目指して

- ①自然環境の保護
- ②住環境の整備
- ③生活しやすい環境作り



コミュニティバスみどり号 (❹・③)

生活文化の共有、 歴史と新しい価値観の融合

蔵 持地域は、市の中央に位置します。蔵持町里・蔵持町原出・蔵持町芝出・蔵持町東・蔵持町西の6区で構成され、約3500人が住んでいます。近鉄桔梗が丘駅周辺の都市機能と、自然豊かな田園風景が混在する恵まれた特性を持ち、蔵持工業団地や大型商業施設、

武道交流館いきいきなどの公共施設があります。大阪のベッドタウンとしての機能を持ち、新旧住民が生活文化を共有し、歴史と新しい価値観の融合でさらなる飛躍が求められている中、「誰もが安心して住み続けられるまちづくり」を目指して4つのまちづくりビジョンを策定しました。



▲明治村に移築され展示されている「旧蔵持小学校校舎」

川西・梅が丘地域づくり委員会

問い合わせ先 ☎・fax 61 - 2855
(梅が丘市民センター内) ✉ umegaoka-ko@emachi-nabari.jp

川西・梅が丘地域の魅力ある事業

地域づくり委員会では、文化財保存活動や地産地消を目的とした青空市・朝市の開催をはじめ、夏祭り、防犯パトロールや子育て支援などさまざまな活動を実施しています。

なかでも、毎年1月2日に開催している杉谷神社を発着とした地域内5キロを走る「笑ろうて走ろう会」は毎年多くの参加者があり、地域に根付いたイベントとなっています。



過去19回開催
「笑ろうて走ろう会」



地域の文化を守る
短野地区の「獅子神楽」

川西・梅が丘地域は、梅が丘小学校校区を該当区とする川西5地区(短野、下三谷、夏秋、松原、大屋戸)と梅が丘地区との共同体です。川西地区は1300年以上の歴史のある地区であり、一方、梅が丘地区は、昭和60年7月より入居が始まった新興住宅地です。現在、川西・梅が丘地域全体で約2500世帯、7500人の住民が住んでおり、平均年齢は42歳です。

当地域の特徴的な活動としては、コミュニティビジネスの活動が挙げられます。その一つは、環境美化事業として、団地内の空き地の草刈を所有者から受託し、また、その他公園緑地帯の草刈を市から受託し、住民の有償ボランティアで作業を行っていることです。もう一つは、団地内の迷惑路上駐車の問題を解決策として、使われていない公共用地などを市から借用して整備し、地域住民の有料駐車場とする

ることです。路上駐車を無くし、その収益を、福祉活動や環境整備などへ有効活用することを進めています。

また、さらにより良いまちづくり活動を進めるために、住民アンケートを実施し、10年後の将来計画「川西・梅が丘地域ビジョン」を策定しました。今後、現在の取り組みを充実させ、アンケートでも要望の多かった福祉事業、防災対策をより具体的に検討していきます。

コミュニティビジネスの収益で 福祉活動や環境整備を!



梅の木がある道路の法面を地域のボランティアで整備

各地域づくり組織から提出された原稿を基に編集しています

薦原地域づくり委員会

問い合わせ先
(薦原公民館内)

☎・fax 63-1800

✉ komohara-ko@emachi-nabari.jp

安心、安全、安住の 里づくりを目指して

薦

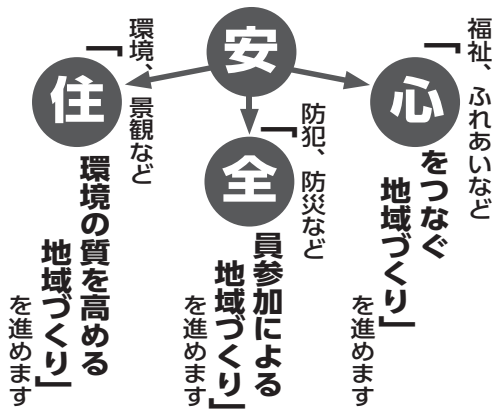
原地域は薦生、八幡、西田原、鶴山、家野、葛尾、の旧村と住宅

団地のさつき台から成っています。地域内には八幡工業団地の工場群が広がります。一方で、市指定文化財(天然記念物)のギフチョウが生息するなど自然豊かな地域です。

薦原地域では、地域一人ひとりのつながりを深めようと、これまでも住民総参加の28回を数える地区民運動会や22回目となる「コモコモふれあい祭り」、そして、子どもたちを対象とした「芋掘り」「鮎つかみ」などを開催してきました。また、食事の支度が困難な人や高齢者に給食サービスを行う配食グループ「こもちゃん」の立ち上げなどに取り組み進んできました。しかし、少子化・高齢化が進む中、伝統行事や地域活動の衰退、農地や里山、河川環境の荒廃が目立ってきています。

そこで、平成23年10月に、概ね20年後を見据えた薦原地域ビジョン「コモコモプラン21」を策定し、「安らぎのふるさと薦原」の実現に向けて地域住民が「丸」となって取り組んでいこうとしています。

「コモコモプラン21」



すずらん台町づくり協議会

問い合わせ先
(すずらん台市民センター内)

☎・fax 68-1007

✉ suzuran-ko@emachi-nabari.jp

■ライフサポートクラブ

路線バスがあっても丘陵地に造成された住宅団地特有の坂が高齢者の外出を困難にしています。また、家事や家の維持管理など暮らしの中での支援を必要とする高齢者も増えています。

このような地域課題を解決していくために、サービスを受ける側も支援する側も住民という支え合いの有償ボランティア「ライフサポートクラブ」の活動を実施しています。会員制の仕組みで、家事や、庭木の剪定、障子張替えなどの日曜大工、日常生活のちょっとした困りごと



の支援をはじめ、近隣への買い物や通院を支援する送迎サービスも実施しています。



■サロンきずな

遊休地を活用して建設された地域福祉の拠点施設を「サロンきずな」として住民がボランティアで運営しています。

喫茶や、手づくり菓子・雑貨などを販売。また、朝市を開催するなど、高齢者から子どもたちまで利用する憩いの場となっています。

地域課題を洗い出し 必要とされる事業を展開！

すずらん台は、市の北東部に位置し、大阪・奈良のベッタタウンとして昭和50年代に開発が進められた住宅団地で、約1500世帯、4000人が暮らす町です。すずらん台町づくり協議会では、安全・防災・環境・福祉、地域交流などを中心にまちづくり活動を展開しています。その中でも特徴的な事業を紹介いたします。

地域ビジョン理念「笑顔が絶えない活力 のある町づくり・人づくりをめざして」

すずらん台の将来像についての住民アンケート結果を受け、地域ビジョンを策定しました。地域ビジョンの具体化に向け、「理想郷プラン実行委員会」を発足し、すずらん台町づくり協議会は、新たな一歩を踏み出します。

赤目まちづくり委員会

問い合わせ先 (赤目公民館内) ☎・fax 63-0329
✉ akame-ko@emachi-nabari.jp



「3つのメインテーマ」と「7つのサブテーマ」を定め、具体的事業の実現をめざしています

■地域環境の整備

- ①安全で快適な生活環境をめざして
- ②自然環境・観光・歴史資源を生かしたまちづくり
- ③地域産業の活性化をめざして

■地域福祉の推進

- ①地域が支えあう支援の輪

■地域交流の促進

- ①ふれあい活動の推進
- ②公民館事業の充実
- ③地域の連携強化

赤 目地域には、760年以上続いている東大寺二月堂松明調進行事や、県の指定文化財の琴平山古墳、さらには天正伊賀の乱で織田信長に攻められ、最後の戦場となった柏原城跡など優れた歴史遺産が多く残されています。

まちづくり委員会では、柏原城跡周辺の清掃を行ったり、地域内の各史跡に説明板や道標を作ったり、優れた歴史遺産を未来に引き継ぐ事業を行っています。

また、住民同士の交流や健康づくり、まちの再

発見を目的とした「ふるさとウォークinあかめ」を開催しています。幼児から高齢者まで参加し、気楽に歩きたがら地区内にある史跡や文化財にふれ、自分たちの住むまちへの理解を深めています。

赤目まちづくり委員会は、事業を通して地域の歴史遺産を知っていただくことで、赤目をいっただでも愛する心を育み、地域住民の皆さんが満足できる魅力あふれるまちづくりに努めます。

歴史資源を生かした 魅力あふれる赤目地域へ

住民の交流と歴史を学ぶ「ふるさとウォーク in あかめ」

「第8回ふるさとウォーク in あかめ」が、3月3日、開催され、地域住民 382人が参加しました。

参加者は自分の体力にあわせて、長い距離と短い距離の2つのコースから1つを選択。コースには、地域内の神社やお寺、琴平山古墳などがチェックポイントになっており、参加者たちは地域の歴史を学びました。

また、このウォークは「出会った人とあいさつをしましょう」などの約束ごとがあり、新たな出会いや、交流の場にもなりました。



青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会

問い合わせ先 (百合が丘市民センター内) ☎ 64-6466 fax 64-6467
✉ yurigaoka-ko@emachi-nabari.jp

「住んでよかったええまち」を目指して

地域づくり協議会は、盛りだくさんのイベントを「ほうっておけない」とボランティア精神に富んだ皆さんの支援で行っています。活動の一部を紹介します。

■教育文化活動

子どもは地域の宝です。この宝を磨き上げていくことがわたしたちの使命だと考えています。

■主な取組み

- ▼百合小学習支援 (ほめほめ隊)
百合が丘小学校の授業に入り、先生を助けて子どもたちを見守ります。
- ▼校外学習支援「野菜づくり教室」
- ▼「百合小子どもクラブ」
毎月1回休日にイベントを開催。遊びを通じ、子どもたちの創造、独立性などを養います。



家庭科の授業を見守る (ほめほめ隊)

■福祉健康活動

引きこもりがちの高齢者の外出を促し、心身共に健康者あふれる百合が丘を目指しています。

■主な取組み

- ▼移動サービス (ゆりバス)
高齢者の買い物や通院の送迎
- ▼配食サービス (ゆりの花)
高齢者の見守りを兼ねて活動
- ▼生活支援サービス (ユリポパイ)
高齢者が生活する上で困った事を手助け
- ◎上記のほかにも、「園芸活動」、「サロン活動」などを実施



車内は、高齢者のふれあいの場 (ゆりバス)

青 蓮寺・百合が丘地区は、市の南西に位置します。1200年以上の歴史を持つ青蓮寺地区と、昭和57年から入居が始まった百合が丘住宅地、平成9年に入居が始まった南百合が丘住宅地から、現在、2800世帯、

7700人が住む地域です。地域の南部は室生赤目青山国定公園の香落溪や青蓮寺ダムなど広大な自然が残る森林地帯で、山裾の丘陵では水田やぶどう園などの農地が広がり、観光ぶどう園・いちご園など特徴のある農業が営まれています。

このような地域の条件から、住民は豊かな自然を大切に、医療、教育、産業福祉の向上を図りながら、住む人々の温かい人情と心の触れあいで相互に助け合い、生きる喜び、生きがいを感じるまちづくりに取り組んでいます。

豊かな自然と触れ合う安全安心で 生きがいを感ずるまちづくり

各地域づくり組織から提出された原稿を基に編集しています

国津地区地域づくり委員会

問い合わせ先

(くにつふるさと館内)

☎ 69-1001 fax 62-6921

✉ kunitsu-ko@emachi-nabari.jp

第5回国津フェスティバル

「第5回国津フェスティバル」が、昨年10月23日、くにつふるさと館で、絆をテーマに開催されました。

開会前のオープニングセレモニーでは、国津小学校全児童が「国津っ子ソーラン」を披露。

続く開会式でも「ビリーブ」「歌えパンパン」を合唱し会場を盛り上げてくれました。

舞台発表で、公民館などで活動する団体が舞踊やハンドベル、カラオケ、大正琴を披露すると、会場からは大きな拍手がありました。また、市の出前トークを利用し、「国津地域の歴史」を学んだほか、くにつふ



るさと館に隣接する「はぐくみ工房あらかぎ」では、国津小学校、国津保育所、特別養護老人ホーム国津園、公民館サークルによる製作品の展示などが行われました。

国津フェスティバルは、国津小学校の児童・PTAなどの参加や、地元消防団員による警備など地域住民でつくりあげるイベントとなりました。

※「山村振興法」で指定された地域。林野面積の占める比率が高く、経済的に不利な地域で支援が必要とされる地域

国津地域は、市内で唯一「山村振興地域」(※)に指定され、高齢化率は約50%と高く、地域づくり委員会は「生涯現役社会づくり」を目指して活動しています。

年間の主な行事は、戦没者慰霊祭、敬老の日事業、区民運動会、国津フェスティバル、一人暮らし老人の集い、世代交流事業、友愛訪問活動、有害鳥獣捕獲事業などを実施しています。これらの事業の中で最大のイベント「国津フェスティバル」をご紹介します。

「国津の郷」に 児童の声高らかに響く



つつじが丘地域自治協議会

問い合わせ先

(つつじが丘公民館内)

☎・fax 68-1236

✉ tsutsuji-kasuga.group@wh.commufa.jp

つつじが丘・春日丘地域ビジョン

「地域ビジョン」は、住民皆さんからのアンケートを基に、協議を重ねました。その結果、住民一人一人が胸をはって住みたくなるまちづくりを目指していきます。

4つの基本構想に21項目の実施計画をまとめました。

《このまちにずっといたい!》 ～誰もが胸をはって住みたくなるまちづくり～

◆基本構想[1] 安心・安全で生きがいを持って暮らせるまちづくり

- 実施計画 高齢者も子どもも安心して憩える公園の整備 他6項目

◆基本構想[2] 子どもたちを心豊かに育むまちづくり

- 実施計画 気軽に乳幼児を預ける事の出来る施設の推進 他5項目

◆基本構想[3] 生活環境・マナーを推進するまちづくり

- 実施計画 マナーを遵守するまちづくり 他3項目

◆基本構想[4] 心の交流を生み出す文化を核としたまちづくり

- 実施計画 文化の創生・育成事業の実施 他3項目

つつじが丘は34年の成熟した街。春日丘は約10年の新しい街。この2つの街で構成されているのが「つつじが丘・春日丘地域」です。

共に丘陵地に開発された住宅地ですが、幼稚園、小・中学校、交番、消防署、郵便局などの公共施設、また、スーパー、個人医院、商店など合わせて約130の施設が揃う、他の住宅団地にはない充実した地域となっています。

しかし、これから10年先を見ると、高齢者が人口の30%を超え、超高齢地域になります。また、若者の地域離れも増加傾向にあります。

自治協議会として地域の活性化を考えて、いつまでもこの地に住みたいとの思いを込めて創った目標を『このまちにずっといたい!』とし、誰もが胸をはって住みたくなる

まちづくりを展開してまいります。

誰もが憩い、遊びたくなる公園づくり、子育てグループ施設の拡充、祭りの創生、高齢者の生きがいある活動の場支援など多岐にわたる内容をじっくりと育て、熟成してまいります。

また、昨年に開催した「スポレク祭り」は従来の運動会とは趣を変えて、誰でも参加できるゲームを取り入れられました。これからの新しい試みを取り入れ、夏祭りや敬老祝賀会なども発展させていく予定です。

事業をじっくり育て、熟成させ 住みたくなるまちづくりを展開



各地域づくり組織から提出された原稿を基に編集しています